



RAKUWA
lecture of health

第92回 らくわ健康教室

2012年3月30日



病院からの退院が 不安なとき

～ 医療相談員の役割 ～

洛和会みささぎ病院
医療介護サービスセンター 副係長 おかだ りえ 岡田 理愛



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院

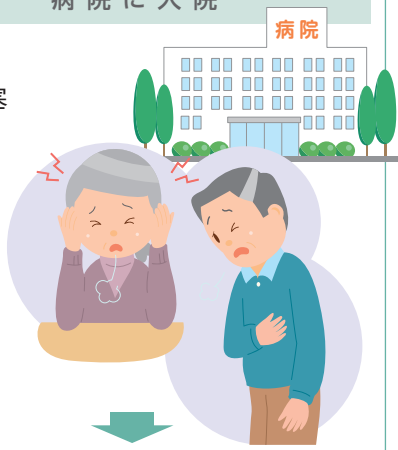
病院からの退院が不安なとき ~ 医療相談員の役割 ~

医療相談員とは


病院に入院

例えば…

- 脳梗塞
- 骨折
- 肺炎 など



治療(点滴・手術など)が終了



病状は安定しました。退院できます。

いろいろな問題が生じることも

- リハビリテーションをしたけど、前のように歩けない
- まひが残ってしまった
- 認知症が進んでしまった など…



いろいろな不安が生じることも

- 家の中に段差がたくさんあり、移動が不安
- お風呂が深いので、入れるか不安
- 病状の管理が不安 など…



↓

そんなとき、相談させてもらう病院の職員が、医療相談員です。



どんな人が医療相談員になるの？

- 社会福祉士
- 精神保健福祉士
- 看護師
- 事務員

などの職員が、医療相談員として業務にあたっています。

退院相談の事例

退院相談を受けた医療相談員が、実際どのように対応していくか、事例をご紹介します。

◎Aさん (70歳代、女性) の場合

Aさんは、転倒により右大腿骨を骨折して入院、人工骨頭の手術を受けました。介護保険を申請し、要介護1の認定が出ています。



リハビリテーション（以下、リハビリ）目的で、洛和会みささぎ病院へ転院され、その後、退院の許可が出ました。しかし、Aさんにはいろいろな不安があります。

以下は、Aさんの不安と、相談された医療相談員が提案した内容です。

- 1 「買い物に1人で行けるかしら」
▶ 週2回、ヘルパーと一緒に買い物に行く。
- 2 「銭湯に行くのは危ないかしら」「リハビリを続けたいわ」
▶ 週2回、デイケア（通所リハビリテーション）で、入浴とリハビリを行う。
- 3 「玄関の上がりかまちが高いので、家の出入りが大変」
▶ 住宅改修を行う。（踏み台を設置して、段差を解消。また、上り下りを安全・楽に行えるよう、手すりを設置）
- 4 「和式のトイレを使えるかしら」
▶ 福祉用具の購入・レンタルを行う。（かぶせ便器を購入して、洋式に変更。また、設置型の手すりをレンタルする）

以上の相談内容を地域のケアマネジャーに報告し、担当を依頼。退院までにヘルパーやデイケア、福祉用具の準備をしてもらいました。

また、入院中のAさん、ケアマネジャー、福祉用具業者、工務店、病院のリハビリスタッフ、相談員などと一緒にご自宅に伺い、Aさんが使いやすい位置に手すりを取り付けられるようにしました。

◎Bさん（80歳代、男性）の場合

Bさんは、長女夫婦と3人暮らしです。脳梗塞で入院し、点滴治療とリハビリを行った後、リハビリ継続目的で、洛和会みささぎ病

院に転院されましたが、胃ろうを造設し、車いすの生活になりました。退院の許可が出ましたが、Bさんの娘さんは、介護ができるか心配です。

以下は、娘さんの不安と、医療相談員が提案・手配した内容です。

- 1 「入院前よりサービス量を増やして、介護を手伝ってもらえるでしょうか？」
▶ ケアマネジャーに状況を報告、介護保険の区分変更を依頼。結果、要介護4に認定され、介護量に応じた介護保険サービスを利用できることに。
- 2 「トイレの介助が不安…」
▶ 1日2回、ヘルパーに来てもらい、おむつ交換をしてもらう。また、入院中に、負担の少ないおむつ交換の方法を、看護師から娘さんに伝えてもらう。
- 3 「デイサービスに行く体力がないけれど、お風呂はどうしよう」
▶ 訪問入浴を週1回利用し、自宅でお風呂に入ってもらい。また、訪問看護に週1回来てもらい、体を拭いてもらう。
- 4 「胃ろうからの注入ができるかしら」
▶ 入院中に、看護師に注入の仕方を教えてもらい、実際に練習していただいた。また、訪問看護師が来る際に、体調の観察と、注入の仕方の確認をしてもらうことに。
- 5 「病状面の管理が心配」
▶ 2週間に1回、往診を頼むことを提案。自宅近くの開業医の先生を紹介。

ほかにも医療相談員は、3カ月に1回、洛和

会みささぎ病院に2週間の短期入院をしてもらい、ご家族の介護負担を減らしていただけるよう提案しました。退院前には、主治医、看護師、ケアマネジャー、訪問看護師、ヘルパー、訪問入浴スタッフ、福祉用具業者など、関係者が集まり、退院後の生活についてみんなで打ち合わせを行いました。

自宅への退院のほかにも…

介護施設や、療養型病院などへの移行について提案することもあります。

社会資源の1つとしての 洛和会みささぎ病院

- 慢性期病院です。(149床)
- 医療処置が必要で、施設を利用できない方への対応が可能です。ただし、長期の入院は難しいです。

洛和会みささぎ病院の特色

- 常勤の神経内科医が、2人います。(2012年5月現在)
- 入院してリハビリをしていただけます。

◎リハビリに関わるスタッフ：

- ・ リハビリテーション科の医師
- ・ 理学療法士
- ・ 作業療法士
- ・ 言語聴覚士

退院に不安を感じたら

入院すると、健康状態の不安だけでなく、退院後の生活に対する不安など、さまざまな不安を抱えることがあります。また、社会制度は複雑で、どのように利用できるのか、わかりにくいこともあります。

そんなとき、医療相談員が、利用できる制度についてわかりやすくご説明し、良い解決方法がないか、一緒に考えさせていただきます。小さなことでも、遠慮なくご相談ください。



- 介護保険制度
- 障害者福祉制度
- 訪問診療、訪問看護
- ボランティア
- 家族
- 配食サービス
- 生活保護制度
- 福祉用具 など

少しでも安心して退院していただけるよう、いろいろな方法を一緒に考えます。